

職場からの実践と連携で伯備線鉄道貨物輸送存続決定!



国交省鉄道局と意見交換



谷田川 ^{はじめ}元衆議院議員



伯耆大山駅の概要説明



関係者会議

―出発点は山陽ロジ労組の仲間の不安の声から―

JR総連は、2023年7月24日～25日にJR貨物労組とJR貨物労連・山陽ロジクス労組の協力のもと、JR伯備線の鉄道貨物輸送の状況や鳥取県米子市にある伯耆大山駅の荷役業務や入換業務などを現地視察し、その後、関係者会議を行いました。

会議開催の目的は、JR貨物会社から「伯備線で運用されているEF64形式機関車の老朽化と輸送量減が見込まれることを理由に2025年3月で廃止する意向」が示され、伯備線・伯耆大山駅と岡山地区で働く組合員の雇用と生活が危ぶまれるのではないかと不安の声が職場の組合員から寄せられたことがきっかけでした。

現地では、JR貨物米子営業所、ジェイアール貨物・西日本ロジステイクス米子営業所の協力もあり、EF64形式機関車の老朽化取り替えに伴う課題、冬期運用時の霜取り列車運行による作業変更や構内除雪の苦勞、平成30年西日本豪雨により山陽本線が寸断されたときのBCP(事業継続計画)・迂回輸送として活用された事例など多岐にわたる説明を受けました。また、今後は2024年度からトラックドライバーの改善基準告示が改正され、時間外労働規制に伴い、トラック輸送能力の34.1%(9.4億トン)が不足する可能性があり、鉄道貨物輸送の役割と期待が大きくなっていることなど、職場で働く組合員の意見を直接聞くことができました。

―政策実現のため関係省庁に働きかけ―

JR総連はこれらを基に、2023年8月3日に谷田川^{はじめ}元衆議院議員(JR総連推薦議員懇談会所属)のご協力のもと、国交省鉄道局との意見交換を行いました。要請に対し鉄道局からは、「今後も伯備線の鉄道貨物輸送は維持していくことを考えている」「自然災害による線路寸断が頻発し、荷主離れが進んでいることについて危機感を持っており、国交省としても打開していきたい」「今回の要望については、持ち帰り国土交通大臣に伝えていく」と、大きな前進となりました。

(2面につづく)

9月に開催した関係者会議では、今後のさらなる活動として、県への要請行動も視野に、ORS（オフレールステーション・鉄道コンテナ取扱基地）の現状についても把握し、ローカル線の維持・活性化にむけた取り組みとあわせて、旅客・物流の両面における政策課題の実現にむけて各級機関において組合員と具体的に活動を展開していくことを確認しました。

また、JR総連推薦議員懇談会をはじめとする国会議員、山陰地域の自治体や鳥取県議会の勉強会において、山陰唯一の貨物路線である伯備線の重要性や、さらなる活用策をJR貨物労組とともに訴えてきました。その結果、鳥取県は「物流の2024年問題解決にむけた官民連携プラットフォーム（トリロジ推進運動）」を宣言し、鉄道コンテナを利用したモーダルシフトに対する補助金制度を新設しました。

こうした取り組みが実を結び、JR貨物会社は機関車の更新を決定しました。事実上、伯備線の鉄道貨物輸送が継続されることになりました。その大きな理由は、職場で働く組合員の声を受け止め、職場からたたかいかいをつくりだし、国会議員・自治体、地域の皆さんと連携して行動してきたからこそであり、大きな成果を得ることができました。



平成30年西日本豪雨の影響による伯備線で迂回輸送



2023.9.22 地域から創るローカル線の維持・活性化にむけた中間総括・検証会議

「ローカル線維持・活性化にむけて」

JR総連は、「9・12ローカル線の維持・活性化と貨物輸送力増強にむけた検証会議」を開催します。鉄道の維持・活性化にむけて、各級議員・自治体・地域の皆さんとともに、連帯・共闘の輪をさらに広げ、地域社会に貢献し、地域に愛される鉄道づくりを推し進めていきます！

あなたと家族に安心届けます。保険はおまかせください。

各種のお問い合わせは
パソコン・スマホから
可能ですので、ご利用を
お待ちしております。

JR総連・各単組賛助団体

鉄道ファミリー

検索

《取扱商品》

- ▲ 自動車保険・火災保険
- ▲ サークル保険
- ▲ がん保険・医療保険
- ▲ 介護保険
- ▲ JR積立年金
- ▲ すみっこ商店

〒141-0031

東京都品川区西五反田3-2-13 目黒さつきビル

TEL 03-3490-3862 FAX 03-3491-7198

「もしも」に備え「もしも」を防ぎ
「もしも」に向き合う。



公式キャラクター
ピットくん

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

たすけあいの輪をむすぶ
こくみん共済〈全労済〉

全国労働者共済生活協同組合連合会 coop

こくみん共済 NEWS

戦後・被爆79年 広島・長崎に思いを馳せてできることを

1945年8月15日の「終戦の日」から79年をむかえました。8月6日には広島で、9日長崎で原爆が投下され、広島では約14万人、長崎では約7万4千人が亡くなったとされています。当時アメリカは原爆を投下したことを「原爆の使用により、日本の屈服を早め、戦争継続による双方の人命殺傷を防止した」と肯定的に主張しました。しかし、1963年の原爆裁判では「原爆投下は国際法違反」として判決が出され、核廃絶や被爆者救済に大きな影響を与えましたが、今なお被爆者が多く存在しており、「黒い雨」を浴びた人が被爆者として認められないなど、被爆者救済もまだ道半ばです。



今一度、戦争・原爆がもたらす恐ろしさや悲惨さを学び、核も武器も戦争のない安全で安心して暮らせる社会の実現にむけて、主催者たる私たちが声をあげていく必要があります。

2009年に「核なき世界」の実現を掲げたオバマ大統領でしたが、2022年のロシア・ウクライナ戦争でのプーチン大統領の「核使用発言」や北朝鮮の核開発などにより、再び核抑止論が高まっています。2024年7月28日には日米両政府は、外務・防衛担当閣僚による安全保障協議委員会（通称2プラス2）では、自衛隊の中に「統合作戦司令部」を創設に合わせて、米側が在日米軍を新たに「統合軍司令部」として再構築し、カウンターパートとして運用強化をすること。そして、装備品の共同生産についても、種類や生産能力を拡大するという方針が示されました。そして、2プラス2後に、「核の傘」を含む米国の戦力で日本への攻撃を思いとどまらせる「拡大抑止」に関する閣僚会合が初めて行われました。この拡大抑止に関する閣僚会合は、中国やロシア、北朝鮮による核の脅威に対抗する目的で、4月の日米首脳会談で合意した日米同盟強化策の一環です。米側は核を含むあらゆる能力で日本防衛に關与すると強調され、被爆地・広島出身の岸田首相が目標に掲げる「核兵器のない世界」とは矛盾しており、米国の核抑止力に依存する日本の安全保障のやり方は厳しく問われなければなりません。核戦力強化が進む社会情勢の中でJR総連は、



連合が主催する「2024平和ヒロシマ集会」に「2024平和ナガサキ集会」に参加しました。被爆79年という年月により、広島・長崎ともに語り部・被爆者が少なくなってきたことを危惧し、語り部・被爆者より一層の連帯した行動が必要で、「願うだけでは平和はおとずれない」「私たち一人ひとりができる行動をしよう」と呼びかけられました。



JR総連九州地協25名で参加 長崎平和祈念像

来年は戦後・被爆80年という節目を迎えるなか、未だに戦争はなくならず、核戦力強化にむかう世界の各リーダーたちに待ったをかけられるのは私たちだけであり、戦争・被爆体験を聞かれる「最後の世代」と言われる私たちがどのように平和を学び、引き継いでいくのが問われる一年となります。「微力だけど無力じゃない」を胸に、憲法9条を守り、核兵器も武器も戦争もない、安全で安心して暮らせる社会にむけて、具体的な実践を全員で推し進め、9条連を中心とした平和を希求する仲間と連帯・共闘の輪を拡げていこうではありませんか！

北海道地協「第36回定期委員会」開催!

7月29日、JR総連北海道地協は札幌市内において、第36回定期委員会を開催しました。

主催者を代表して中川議長は、2024JR総連春闘総括をはじめ、旅のプレゼンテーションの成功、能登半島地震へのボランティア派遣、安全確立のたたかい等課題に触れ、組織の破壊攻撃に対し断固たたくことを訴えました。ご来賓のJR総連・小林書記長は、JR総連を取り巻く状況を明らかにするとともに、東海道新幹線保守用車衝突に触れ、安全確立のたたかいを推し進める決意と、政策課題としての鉄道貨物輸送における課題などについてあいさつがありました。

質疑では、2024JR総連春闘で勝ち取った成果とともに、次なる課題として産業界・企業間・JR会社間や労働者間の格差と、それを突破するための団結強化のためにたたかう決意が述べられました。また、組織破壊攻撃が激化しており、自らへの攻撃として捉えるとともに、「抵抗とヒューマニズム」の実践たる旅のプレゼンで得た組織的財産のもと、さらなる連帯・共闘の強化と職場活動の強化にむけた発言がありました。宮下事務局長による総括答弁では、社会的に弱い人達の目線に立った運動をつくること、あらゆる組織問題に対しては断固たたくことを確認しつつ、2025JR総連春闘構築にむけ、学習を含めてたたかいをつくり出すことを答弁しました。

大会参加者全員で「東海労働裁判」をたたかうJR総連近畿地協・津崎議長へ撤布を作成し、共にたたかう決意を打ち固めました。

2024年度JR総連北海道地方協議会役員

議長	中川 憲一	JR北海道労組
副議長	河上 泰生	JR北海道労組
事務局	宮下 誠幸	JR貨物労組
幹事	高橋 秀幸	JR北海道労組
幹事	杉山 渉	JR北海道労組
幹事	佐久間 昌広	JR貨物労組
幹事	本間 宣至	JR貨物労組
会計監査員	畑 正利	JR北海道労組
会計監査員	川口 恭	JR貨物労組



JR総連青年協議会「第24回定期総会」開催!

JR総連青年協議会は7月26日、目黒さつきビル会議室において第24回定期総会を開催しました。

主催者あいさつで宮下議長（JR東労組）は、青年協議会を取り巻く情勢、青年協議会運動の意義について述べ、現状をそのままにせず、青年協議会から組織を活性化していく決意を述べました。その後、来賓あいさつでJR総連・小林書記長は、政策課題をはじめとするJR総連の当面する課題、相次ぐ新幹線に関連する事故等の安全問題、平和の課題について述べました。

発言では、組織破壊に抗するたたかい、安全問題、9条連の強化・拡大（JR北海道労組）、組織拡大の成果と課題（JR東労組）、組織拡大と団体交渉での成果（JR西労）、職場での青年部員の組織化、春闘で単組を激励し横のつながりをつくる（JR貨物労組）、青年部員の声を聴く努力の積み重ね（システム労）等が語られました。これらの発言により、青年労働者たちの取り組みの成果と教訓を共有し、単組の垣根を越えたつながりを軸に、職場から安全や平和の取り組みを推し進めることを確認しました。

総会の最後に、JR総連青年協議会の総意として、組織破壊に抗してたたかうJR総連近畿地協・津崎議長への撤布をJR貨物労組代表に手渡し、共にたたかうことを確認。その後の懇親会でも、各単組の青年労働者同士の交流を深めました。なお、新体制は今後開催する青年協議会幹事会で決定することとなっています。



加盟単組の大会が終了 新三役(四役)体制の報告

JR総連加盟の各単組の大会が終了いたしました。各単組の新三役(四役)体制についてご報告いたします。

単組名	委員長	副委員長	書記長	書記次長
JR北海道労組 (6/10開催)	中川 憲一	河上 泰生	高橋 秀幸	
JR東労組 (6/19開催)	加藤 誠(新)	佐藤 伸也/助川 一実(新)/佐々木 克之 鶴ノ澤 信一	高橋 孝一(新)	
JR東海労 (6/9開催)	淵上 利和	成田 隆浩/斉藤 孝紀/高山 浩/畑野 浩孝 伊藤 一也(新)/半場 弘恭/荻野 隆一/笹田 伸治	本橋 浩司	
JR西労 (7/5開催)	前川 誠	西村 勝/小川 剛/田村 豊/木村 正 白旗 洋光	幸 義晴	
JR貨物労組 (6/24開催)	村上 貴史(新)	西本 典充/菊地 秀晶(新)/平井 聡一(新)	伊藤 俊也(新)	
鉄研労 (7/20開催)	金元 啓幸	中村 竜/奥田 大樹(新)/池田 遼平 坂井 宏隆(新)	小林 樹幸(新)	塩田 勝利 太田 佑貴(新)
システム労 (7/6開催)	三枝 祐野	大澤 篤史/木部 宏昭/木山 敬太(新)	寺西 慶多	杉田 陽介
聚楽労組 (7/17開催)	斎藤 敏彰	関 隆	加藤 明	